

共同運営部門：臨床工学・技術センター

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
副病院長兼臨床工学・技術センター長	船津 俊宏
臨床工学・技術部門長 兼臨床工学・技術副センター長	荒川 昌洋

＜特色と概要＞

臨床工学・技術センターは、2024年4月に発足した。その本質的な業務は、診療支援局の一部門である臨床工学・技術部門とほぼ同一である。さまざまな医療機器や医療を補助する技術は、医療の現場に深く関わっており、それらの安全で適正な管理運用は、医療の安全と質そのものと言っても過言ではない。このように、病院機能の中で非常に重要な役割を担う臨床工学・技術部門であるため、共同運営部門の一センターとして位置付けられ、発足に至った経緯がある。

2025年度の当センター業務実績の詳細については、診療支援局 臨床工学・技術部門の項をご参照いただきたい。概略としては、臨床工学分野では、呼吸関連業務での終夜睡眠ポリグラフィー検査の大幅増加、心臓カテーテル関連、中でもパルスフィールドアブレーションの開始によるカ

テーテルアブレーションの増加、代謝関連では、血液浄化センターおよび集中治療領域での血液浄化件数の高い数字の継続、手術関連では、年間136件のロボット支援下手術や昨年度開始された年間19件の経カテーテル大動脈弁留置術(TAVI)にそれぞれ対応した。また、医療機器管理業務については、中央管理となっているシリンジポンプ・輸液ポンプ、経腸ポンプ・体外式ペースメーカーの中央管理を継続して行った。臨床技術分野では、視能訓練士による眼科診療補助や眼科検診の実施、歯科衛生士による院内各部署における歯科口腔診療の補助や口腔ケアを今年度も多数行ってきた。

このように、院内のさまざまな診療の医療機器対応などに今年度も大きく関わり、またその件数も増加傾向にある。

＜来年度の抱負＞

来年度の抱負としては、ますます症例数増加が見込まれるロボット支援下手術やTAVIへの介入を中心に、重要性が高まるこうした医療機器関連業務や医療技術提供場面において、安全性と効率性を維持し病院運営にますますの貢献を果たしたいと考えている。

共同運営部門：栄養管理センター

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
センター長兼消化器外科医長	古川 陽菜
栄養部門長 (管理栄養士)	遠藤 隆之
管理栄養士	9名

＜特色と概要＞

当センターは給食管理、臨床栄養管理を担っている組織であり、NST(栄養管理委員会)と連携して業務を遂行している。

栄養管理センターは医師、看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、検査技師、管理栄養士で構成される栄養サポートチーム(Nutrition Support Team:NST)の事務局として中心的な役割を担っており、入院中の栄養不良患者への栄養サポートに従事している。今年度の実績について下記に示す。

- ① NSTチームの編成の見直しを行い、従来のNSTチームとは別に病棟単位でNST活動を行う病棟型NSTを立ち上げた。その結果、NST加算件数は2025年度990件と昨年度より約590件の増加を認めた(下記表参照)。

- ② 日本栄養治療学会(JSPEN)のNST教育施設として2025年度は院内14名、院外4名に対して研修を行った。
- ③ 多職種協働でNSTマニュアルの改訂を行った。

＜実績＞ 2025年度NST加算件数 990件

月	総件数
4月	116
5月	74
6月	77
7月	76
8月	95
9月	89
10月	81
11月	69
12月	86
1月	79
2月	69
3月	79

＜今年度の成果と来年度への抱負＞

りんくうNSTチームのチーム数を増やすことで、NSTカンファレンス・回診件数の増加に繋がった。また、NSTマニュアルを見直して栄養管理の質向上に努めた。

来年度は、経腸栄養指示表の一元管理を行い、安全性の確保と栄養サポート体制の質向上を図る。